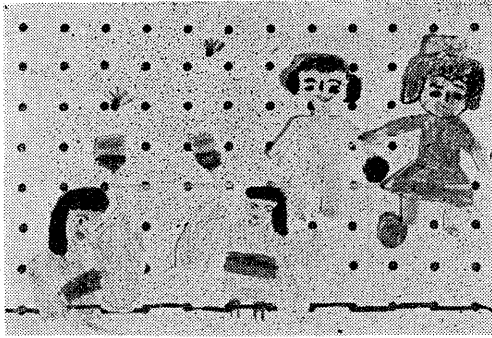


# 穴あきボードの遊び

及川 ふみ



子どものものを通しての表現活動の遊びを観察していると、ある場合はすでに経験ずみのものをくりかえしくりかえし使って遊んでいることもあれば、またある場合には、

新しい材料すなわち新しく変化のあるものに対して刺激を受けることによって興味をひきおこし、表現活動が始められるときもある。

これは、幼稚園や保育園で

の子どもの遊びのうちによく見られる姿であって、砂場の遊びや、ままごと遊びなどは、いつの時期においても、くりかえしくりかえし興味深く遊びつづけられている。ただそこには、遊びの深さや幅について、それぞれの年齢や発達の程度によって差異のみられることはいうまでもない。

そこでくりかえしくりかえしその材料を通しての遊びがつけられている場合に、その指導の面について、さまざまの方向からこれを観察して、その後の遊びの発展に役立つ資料をつかみとることをおこたってはならない。

子どもが最も興味をもって遊ぶ砂遊びの場についても、子どもの次第に成長する面を考慮して、遊びの仲間の数、あるいはその用具の種類や数量などの点からいつも同じ状態であってはならないので

あって、子どもの成長に対しての適当な環境をととのえておくことはいうまでもない。観察によってつかみとったものからあるいは新しい用具をさらに加えるとか、あるいは興味の薄れたものを取りさつて整理してみるとかなどしつづつ、教育内容の指導目標に近づけることができるのであろう。

またままごと遊びの場においても、三才より五才までの年令の差とかあるいはその子どもの集団生活の経験の長短などによって、そこに展開されていくままごと遊びの状態を予測して、おもちゃが準備され用意されていなければならないのであるが、これの配慮が比較的なおざりにされて、みのがされている場合が多いのではなからうか。

子どもの遊びの指導について、在来遊びや、それにとまなう資材や、用具などの年ながく使い続けられているものは、その遊びなり、用具資材なりが子どもの間にも興味がつづけられ、また一方指導する方の側からも適当なものとしてつづけさせているということである。

しかし、ここで子どもの指導的立場におかれているものとして考えなければならぬのは、これらの遊びや、資材や用具に対して手ばなしの状態であつてはならないということである。子どもの自由遊びが手放しにされる危険性の多いものであると同様に、この点

についての反省や工夫が考えられていくべきものである。

子どもに新しく与えられる資材について、おとなの期待されるものの生じる場合もあり、また反対に全然予測されない結果をみることもある。むしろ子どもなりに工夫されたものがみられることによるこびを大いに感じたいものである。

男児のよろこんでする木工遊びの場合のなかでのことであつたが、新築家屋の工場から大きささままの木切れを買い求めて与えた時に、汽車、電車、自動車などと、きわめて簡単なものではあるがいろいろの乗物がつくられるのが多かつた。これは教師側の期待にもそつて、あるものは長すぎる部分を取り去ることに手伝いを求められたり、またあるものは別にこれにつけたすことを注文されたりなどして、いくつかの作品ができあがつたのである。そのうち一人の子どもは敷居の端し切れの凹凸をそのままいろいろと工夫した結果、凹形を二つずつ上下に組み合せて釘でうちつけ、ビルディングといつて得意であつた。これなどおとなが全然予測していないものがつくられて子どもの考え方に感心させられてうれしい場面であつた。こんな場合にぶつかるときに、新しい材料を見つけたして子どもにも与え、そこに子どもの工夫がもたれるということにおとなの大きな役割のあることが痛感させられるのである。

新しい資材を見つけて出すにあつては、そこにはいくつかの条件

がともなってくる。すなわち

- ・子どもの発達に適切なものであるかどうかということ
- ・素材として子どもが工夫のできるものであるかどうか
- ・保健、衛生の点で適当なものであるか

・資材としてしばしば子どもに与えられるものであるかという費用の点はどうであるか

などの諸点があげられてくる。

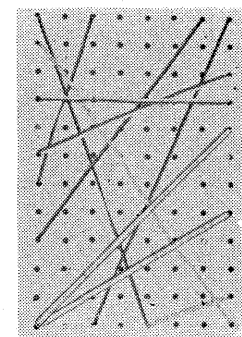
この特点を考えつつ、子どもに与える資材については常に一応の注意をむけているものであるが、たまたま一つの試みについて材料を得たので、ここでその一たんを紹介することにした。

#### 穴あきボードの試用について

近代建築の資材として多く使用されている穴あきボードは、保温や防音などについての長所をとり入れられて、天井、壁面に張られているものである。これを幼稚園でも用いてみて、子どもの作品の展示板としてみた。

また、この穴あきボードのほかに、新しい台所で用いられているハンガーボードは、狭い壁面を広く使い、しかも必要に応じてものをかける位置を移行させることの便利な点などがかわれて利用

の面が多いものである。



この穴あきボード、ハンガーボードのそれぞれの長所を幼稚園の用具としてとり入れて、こころみでから約一か年ほど経

過したのであるが、その間にこれらのものを単に子どもの作品の展示用のみに使用するのではなく、子どもの作品そのものの材料としてとりあげてみることを思いついたのである。

しかし展示用の黒板大のものでは一人ずつの子どもの材料として使うのには、始めはいろいろの点で不便である。また一人ひとりの子どもの使う材料という点からとりあげるならば、どのようなものがよいかということも考えられなくてはならない。穴あきには、テックス・ベニヤ板 プラスチックなどさまざまあつて、それぞれの用途によって選択されている。

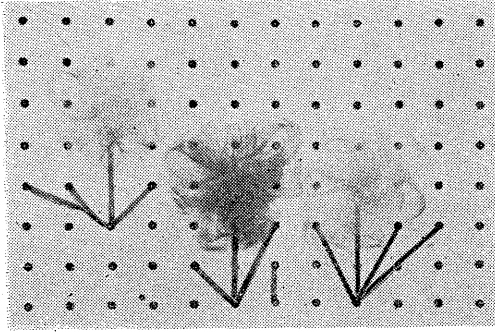
一応これらのいろいろの種類のを集めて使ってはみたが、いづれもそのままのものでは子どもの使う材料としては適当でないということがわかった。ことに費用の点では、最も大きくぶつかるのであった。

そこで子どもが使うに使いやすい白ボール紙を材料としてこれに

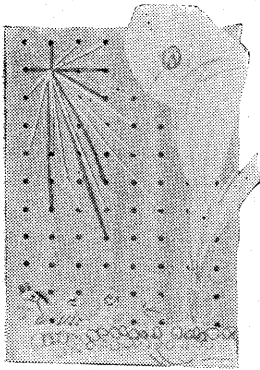
穴をあけることにした。そこで一人用のボール紙の大きさを縦二六センチ 横三六センチと定めてみた。

次に穴の大きさであるが、これにも適度があるので、直径〇・五センチの穴をあけた。また穴と穴との間隔は、これも考えた結果三センチとした。これでボール紙の全面に九六の穴があくことになった。

一枚のボール紙の大きさ、穴の大きさ、穴と穴との間隔などを一通り決めるまでにはさまざまに試作をつづけたものである。方眼に



線を引きこれに適當の間隔に穴をあけることはなかなか手数がかかったが、これに協力者のよき周囲の人を得たことであつた。



線を引きこれに適當の間隔に穴をあけることはなかなか手数がかかったが、これに協力者のよき周囲の人を得たことであつた。

この板の穴をいかにつかって遊ぶかについて用意したものは、紙テープ シデ紐 リボン 模造紙 画用紙 自然物の草木の茎や葉  
その他のものであつた。

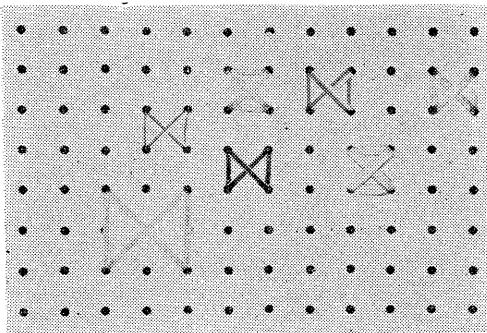
使用した最初の様子をいってみると、男女児それぞれ二人ずつに台紙の穴あきボードを各自に一枚ずつ用意し、この四人のグループに紐や、紙その他のものを入れた箱を準備した。

「これで何でもして遊んでみましょう」

ということからはじめ、

かたわらで自分も一人前の台紙をとって仲間入りをした。

はじめは最も簡単なやり方で、一穴ずつ出したり入



れたりしてみた。

子どものうちには  
穴のあちこちに紐  
を出してみよう  
こんでいるのもあ  
れば、紐が長くて  
からんでこまっ  
ているものもでき  
ました。

いろいろの子ど  
もをかわるがわる  
集めてやっている

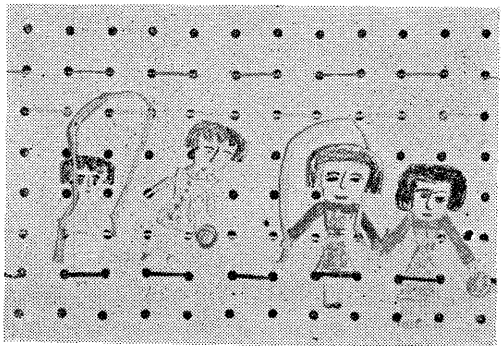
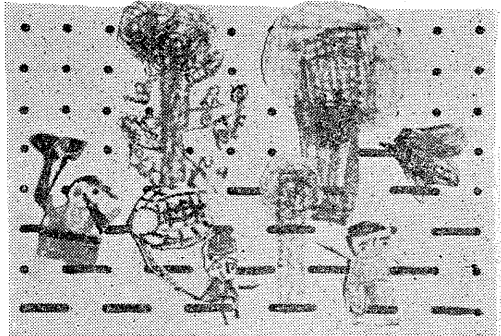
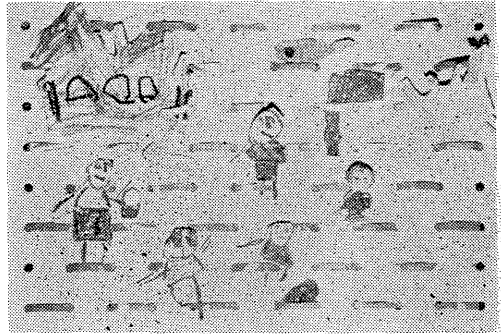
うちに、大体次のことがわかってきた。

- ・一穴ずつ縫うような形
- ・一つの穴から、上下、左右、斜めという方向に四方八方に紐を出す形

・必要に応じて紐を長く引いて適當の場所で穴におさめる

・点(穴)と点をつなげて自分の考えた形をつくっていく

こんな種類の基本的なものが、子どもと一しょに材料をいじっている間につかみとることができた。



なお穴と紐との遊びからさらに進んでいくことをこころみた。

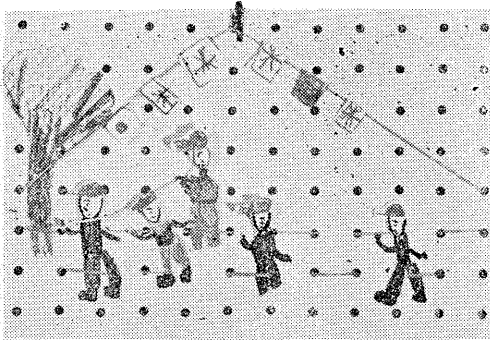
一穴ずつに紐を通してできたものを海として、それから海水浴遊びを作ってみることに展開させてみた。画用紙に海水浴をしている

幾人もの子どもをかき、それを切りぬいて、海の紐にさしはさむ。

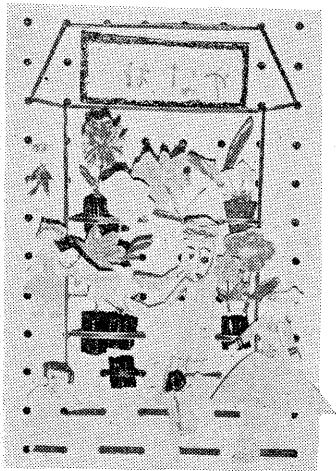
浮き輪をかついでいるものもあれば、お魚をおいかけている子どももできてくる。そのうちに竜宮城もつくられるというように子どももっている海からのいろいろのものがそこに作られていった。そしてさしはさんだものを適宜に動かすことよってつくったもので

遊ぶことができるという一つの長所もみつかった。つまり遊びつつくる、あるいはつくりつつ遊ぶという、子どものものをつくる自然のすがたでいけるのである。

また別のものは一穴ずつ紐によって縫われたものが野原となる。その野原に、画用紙でつくられた木が植えられ、木には蟬がとまっている。子どもが虫とりあみをうちふって蟬とりをしてる場面がつくられていく。これも蟬がとんで他の木に移ったり、子どもが追いかけて紐をうつつしていったりして遊んでいるのである。



上の写真は運動会のかけっこの場である。かけている子どもの様子は、海水浴や蟬とりの場と同じである



が、運動場の飾りの万国旗のつけ方は、また異なったやり方を考え出しているのが見られておもしろい。  
また花火の季節のものとして、大きな花火を一つの穴から四方八方に紐を出したのに対して子どもはその下に、花火見物の場をつくっている。

必要に応じて線をつくっての遊びもいろいろのものがある。動物をつくっておいてあとから商品をつくることもあるし、お店をつくっておいてあとから商品をつくってならべてみることもできる。穴に通すもの、穴にさすものいつでも紐にかぎられたわけではない。いろいろの形に紙を切って穴にさしこんで、花をつくってみたり木を植えてみることもできる。いままで作ったものを一つひとつあげることもできないが、大体五才児を対象にいろいろのものがつくられ、遊ばれたのである。

しかしもっと広い範囲にこの穴あきボードが使われて、子どものよき遊び相手になることを期待している。ささやかな材料の試みとしてあまりに望みが多すぎるかとも思われるが、たくさんの子どもたちにこの穴あきボードがよるこんで使われることを願っている。